

LAI（葉面積指数）によるユズせん定の見える化

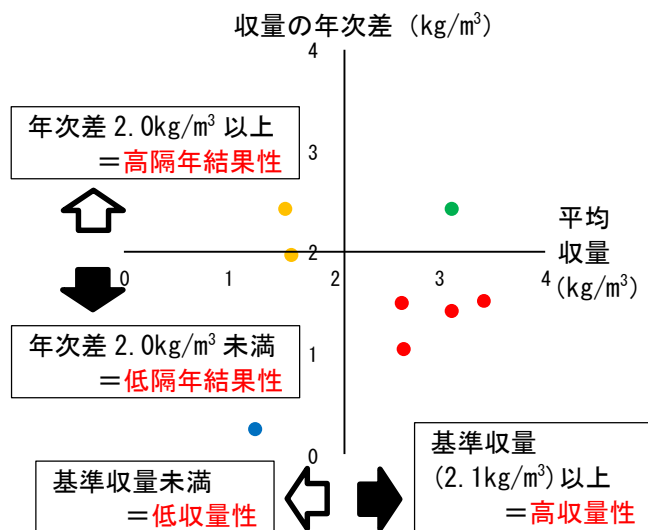


図1 収量性と隔年結果性による園地分類

写真1 PCAによるLAI測定の様子

※1 園地当たり4樹調査

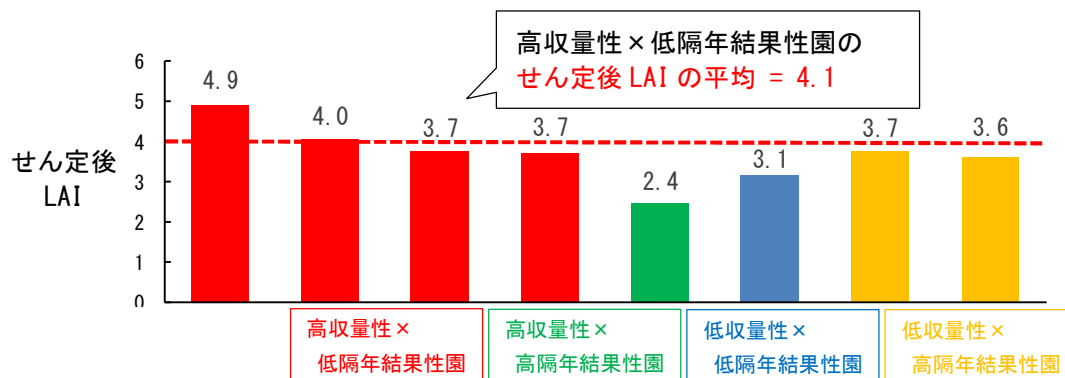


図2 園地別のせん定後のLAI

※1 園地当たり4樹を2年調査

ユズのせん定には熟練が必要で、新規参入を阻害する一因となっています。特に、せん定を「止める」判断が難しく、不適正なせん定が隔年結果を引き起こす原因となっています。そこで、せん定程度の指標としてLAI(葉面積指数)の利用を検討しました。

まず、県内のユズ園地8カ所の収量を2年間(2019、2020年)調査し、収量性と隔年結果性から4つに分類しました(図1)。そのうち、高収量性かつ低隔年結果性と分類した園地のLAIがせん定を「止める」指標になると考え、せん定後の4月に

PCA(プラントキャノピーアナライザー、写真1)を用いてLAIを調査しました。その結果、LAIは平均4.1(図2)となりました。

PCAは非常に高価であることから、今後は、生産者が自園で気軽にせん定程度を把握できる、簡易なLAI測定技術の開発にも取り組んでいきます。

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「I o P(Internet of Plants)」が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化の助成を受けたものです。

(果樹試験場 谷本 佑 088-844-1120)